

オオタバコガ情報第6号（ダイズ・キャベツ等）

令和6年10月4日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病虫害防除室

フェロモントラップの誘殺数が急増しています 他のチョウ目害虫も含めてほ場での発生状況に注意しましょう！

本虫については、7月3日付けで令和6年度病虫害発生予察注意報第4号を、また、9月2日付けでオオタバコガ情報第5号を発表しましたが、その後急増して現在まで発生量が多い状況が続いていることから、引き続き注意が必要です。

1 ほ場における発生状況

9月下旬のダイズほ場（9地点18ほ場）で行った巡回調査の結果、本虫の寄生株率は1.00%（平年0.86%、前年1.22%）で平年並の状況です。

9月下旬のキャベツほ場（10地点20ほ場）で行った巡回調査の結果、本虫の寄生株率は1.10%（平年0.65%、前年3.30%）で、過去10年間で2番目に高い状況です。

2 フェロモントラップにおける誘殺状況（図1）

フェロモントラップでの直近1ヶ月の総誘殺数は、長久手市（農総試）、豊川市では過去10年で最も多く、稲沢市、西尾市、田原市で2番目に多くなっており、その他の地域もやや多い状況です。

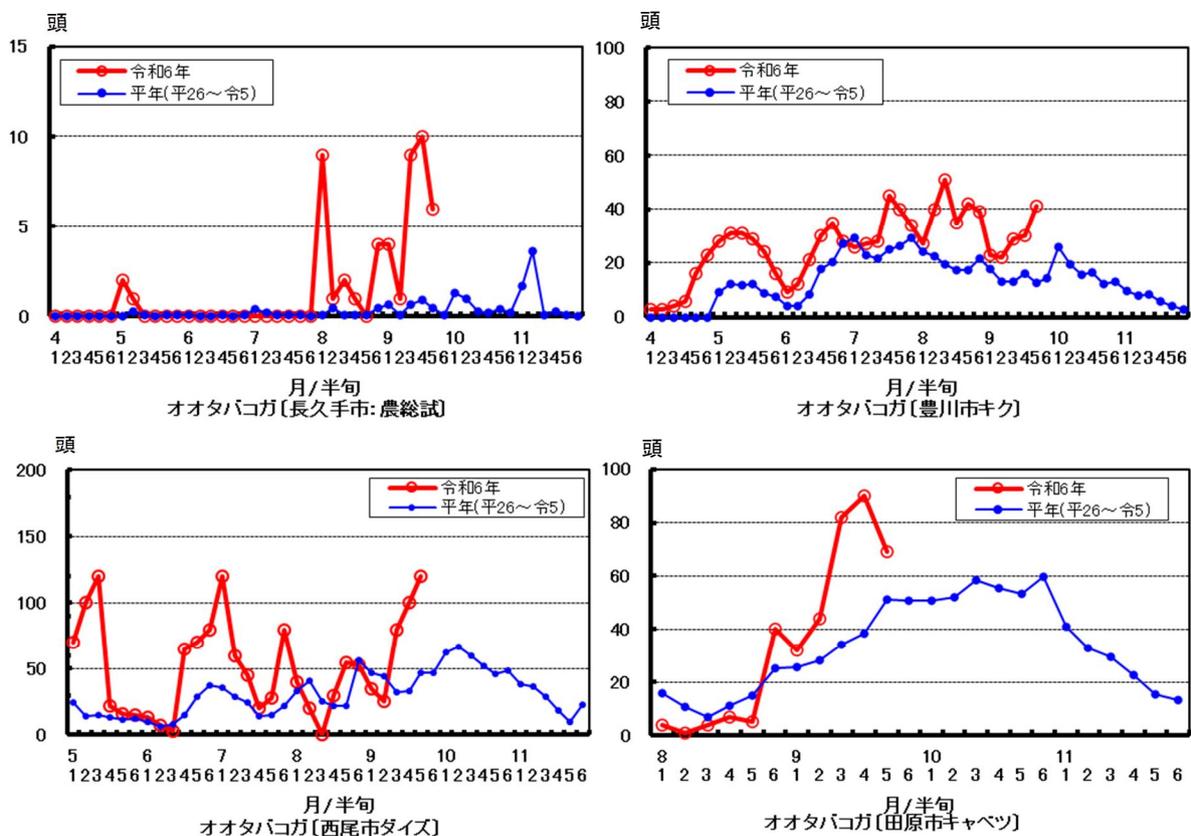


図1 フェロモントラップにおけるオオタバコガの誘殺状況

3 今後の予測

10月3日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高く本虫の増殖に適していると予想されるため、発生量が増加する可能性があります。

4 本虫による被害と防除対策

本虫はダイズの莢を直接加害する（図2）ことから、被害が大きくなります。

キャベツでは結球部に食入した幼虫や、発育が進んだ幼虫には薬剤の効果が著しく低下するため、若齢幼虫のうちに薬剤防除を徹底しましょう。

被害部位の残渣は、卵や幼虫が付着している可能性があるため、放置せず適切に処分しましょう。

農薬については、8月2日発表の「オオタバコガ情報第3号（ダイズ、キャベツ、キク等）」を参考に、発生を確認したら防除しましょう。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同じIRACコードの薬剤は連用しないようにしましょう。



図2 ダイズの莢を食害する老齢幼虫



図3 キクの花蕾を加害する老齢幼虫